

会 議 録

1 会議名

令和4年度第6回北諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

- ・地域活性化の方向性について（公開）

3 開催日時

令和4年12月1日（木）午後6時30分から午後7時8分

4 開催場所

上越市立北諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 白木朝雄（会長）、高橋和彦（副会長）、大瀧修一、大舘崇雄、澤海雄一、高橋礼子、中野洋子、松矢 茂（欠席者3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【白木会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：松矢委員、大瀧修一委員に依頼
- 議題【協議事項】「地域活性化の方向性について」事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・資料No.1 「「地域活性化の方向性」について出された意見」及び、資料No.2 「「地域活

性化の方向性」の検討について」に基づき説明

本日は、今後の検討の進め方を協議いただきたい。その前に、前回欠席された委員より、地域の魅力や特性、次世代へ残していきたいものを「どうしていきたいか」について意見を伺いたい。資料No.1の下線が付いているものが前回の意見交換で出された意見である。

【白木会長】

前回の欠席委員より意見を求める。

【大館委員】

地域協議会委員がいろいろと進めていくのは難しいと思う。方向性としては、いろいろな人の意見を聞くことは大事だと思う。いくつか意見が出ているが、これで北諏訪区全体が活性化するかというとなかなか難しいのではないかと。他の地域を見ると、北諏訪には病院、スーパーがない。これは個人的な意見だが、将来車がないと、この地区はどうにもならない。あるニュースで取り上げていたのだが、病院や買い物へは巡回バスで行ってもよいし、スーパーの人が移動販売車でこちらに来てくれてもよいと思う。10年先になれば高齢者だけの家庭が増えていく。数年前から、自助、公助、共助と言われていて、自助として地域でやることができればよいと思うが、そろそろ公助で、地域の意見を取り入れて、公がもう少し動いてもらうような将来設計を考えていかないと、ここ1、2年で案を出してもなかなか難しいのではないかと。地域巡回バスやいろいろなものを考えていくには、市の方と協力していけたらと思っている。

【白木会長】

今ほどの意見やこれまで出された意見に対し、意見、質問等を求める。

【澤海委員】

大館委員の言われた観点は、当然の部分が多いと思う。日本において、公の力はどんどん小さくなっていく。人口が減少して税金も少なくなっていく中、公で働く人たちをどんどん減らしている状況が続いている。そうした中で公助が難しいから、共助、自助となっている。その流れをここで変えるのは非常に大変だと思う。そうした中で、どこまでできるのかだが、第一には家族だと思う。そして、隣近所、地域での自助だけではなく、共助になるのかと思う。こういった意識を醸成していくしかないのだろうと思う。

【白木会長】

他に意見を求めるがなし。

次に、今後の検討の進め方について意見を求める。

【大館委員】

ある程度、皆さんで方向性を出してから進めてはどうか。

【澤海委員】

多くの人たちの年代を超えた意見を聞きながら、それを吸収していくのは非常に大事だと思う。皆さんのお宅に「北諏訪だより夏号」が配られていると思う。そこで触れたのだが、北諏訪まちづくり振興会がやらないといけないと思っている。「明日のために～あなたの声を聴かせてください～」ということで、アンケートを町内を通じて多くの住民にお願いしたいと思っている。自分の家族の年齢等も考えながら、10年後、20年後にどういう地域にしていきたいかなどのアンケートで出てくるいろいろな意見を集約しながら、それを地域協議会とも共有したいと思っている。

【白木会長】

アンケートはまだ実施していないのか。

【澤海委員】

まだである。

【白木会長】

そこでどんな意見が出てきたのかがスタートである。

【大館委員】

それも1つだと思う。全体のアンケートをとった結果が参考資料である。最初に申し上げたのは、やはりそれぞれの考えがある。中真砂は予算をもらって飯田川の整備をしている。他の地区はしていないと思う。これはその地区が中心になって全体でやるとなったときにどうか。それはその後の話だが、意見が出た時に北諏訪全体で考えるのは振興会なのかもしれないが、私としては先が見えない。意見の集約が先かもしれない。

【澤海委員】

地域の方の意見をお聞きして今回まとめられたものは、意識の高い人だけが出してきたものだと思う。それは、この地域をどのように感じているかが主体であって、どうしていくかという主導的な考え方は無いと思う。そういったものをやっていく組織が必要で、組織はリーダーを育てていくのも大事だが、主体的に参画していく人たちを増やしていく必要がある。そのためには、まず、強い組織を作っていくのが大事だと思っている。それはいろいろな意見の方がいるのでなかなか大変である。火中の栗を拾うのは嫌

だという人もいて、そこが問題といえれば問題だが、そういった人を育てるのは盛り上げるということでもあるので、その意識を多くの人から持ってもらうような流れに持っていけない限り、大館委員が心配するように意見だけ出しても、それを形にしていくような、どういううねりにしていくのかが見えなくて、悲観的になってしまうのではないか。人づくり、組織づくり自体が非常に大変なことであるが、まず、そこをやっていかないと何も動かないのではないか。そこで、まちづくり振興会の役員の人たちに、まず意識を高くしてもらいたいと思っているところである。

【白木会長】

一番大事なのは、若い人の参画をいかに我々が進めていくか。まちづくり振興会、あるいは、地域協議会が積極的に参加する人材をピックアップしていくかが大事である。

なお、飯田川の改修は、中真砂が予算を付けてもらったのではなくて、飯田川改修促進期成同盟会が動いたものである。

【澤海委員】

大館委員が言わたのは、草刈りの話だと思う。他の町内でもやっているが、改修されていない上流の地区はできない。

【松矢委員】

地域協議会とまちづくり振興会があるが、この会で検討したことを具体的に活動の形にしていくことは、この会だけでできるのか。そうではなくて、具体的に何かしようと思えば、まちづくり振興会が動くような位置関係、地域協議会はどういったことをして、まちづくり振興会はどういったことをするのかという住みわけができていない気がする。

【白木会長】

思いは一緒である。その地域のために何が出来るか。地域協議会は、発足して年数が経って経験値も豊富であり、まちづくり振興会は、3年前に立ち上げて活動している。そもそも、地域協議会は行政の範疇にあり、まちづくり振興会は、地域に根差した団体であり全然違う。ただ、地域活性化の意識は一緒だということでは捉えていただければいいのではないか。そこで相談をしたり、連携を取りながら活性化に向けた取り組みをしていけばいいのではないか。建設的な意見をいただいて、いろいろな活動にはめ込んでいけば一番いいわけである。

【松矢委員】

少し残念なのが、地域協議会に入って2期目だが、自分が何をしたかという、何も

残していない。提案した事項に対して審査して、採決して承認したことしか残らないので、検討会をして話し合いしても、なかなか、形に残ってないので、それが何だったのかなという気がする。

【白木会長】

それは、個々の価値観で違うのではないか。

それでは、まちづくり振興会が行うアンケート結果を踏まえて協議を進めることとする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

次回の地域協議会は、1月中旬から下旬くらいの開催を考えている。会長と日程調整の上、日程が決まり次第、皆さんにご連絡したいと思う。

【白木会長】

その他に皆さんに意見、質問等を求める。

【中野委員】

知り合いが、地域を活性化するための新しい案を提案してくれたので、その案を話したい。

まず、北諏訪区には農家が多いので、その人達が作った野菜を朝市みたいに売る場所を月に1回とか設定してもらって、それをこの地区だけではなく、違う地区にもチラシを配って、北諏訪を知ってもらいたいと思う。それをやることによって北諏訪で野菜を安く販売していると口コミで広まって、それがだんだんと大きなイベントになって、キッチンカーなどを呼んだり、楽器演奏などを披露するステージを作ったりできないか。

【白木会長】

この地区に農業委員や農地利用最適化推進委員がいるので、そちらのほうで、積極的に農業推進をやっていくべきだと思う。

【中野委員】

そういう意見はそちらに言えばよいのか。

【白木会長】

そう思う。

【澤海委員】

農業振興とは違う問題なのではないか。

【白木会長】

そういうところから、ある程度アクションを起こしてもらわないと個々では動けないと思う。

【澤海委員】

中山間地のほうではよくやっているが、この辺ではどうかと私は考える。今、うちの周りの農家の人たちは、畑があるから野菜をいっぱい作る。それを無料で近所に配っているような状況なので、買いに来る人はいないと思う。

【中野委員】

地元ではなく、他の区にPRしたい。

【白木会長】

無人販売だと駄目である。今うちの町内では、農家がたくさん作って、農協と提携してやっている。おそらくそういう部分については、農協の職員に聞いたら早いと思う。

【澤海委員】

中野委員のイメージと近いのは、家での不用品を持ち寄るバザーのような形だと思う。それは、まちづくり振興会のすこやかサロンの中で、今のところ住民の方には声をかけていないが、参加者だけで開催しており、非常に好評である。そのようなものを、だんだん広げて、そこに野菜が入ってもいいし、人が集まってわいわい話ができる、そういった場づくりだと私は思った。そこから、もう少し大きく、区外の人たちにも声をかけるような、そういったものにしていくというのは、面白い案だと思う。

【白木会長】

いろいろなことを吸収していきたいので、いろいろな人が地域から声が出て、参加してもらいたいということも1つの案だと思う。

他に意見を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。